

平成29年 2月17日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	商工労働部 中小企業課	氏名	古川 拓也
派遣先 団体名	NPO 法人 あしぶえ		
【この報告書をご覧になってくださっている方へ】 NPO 法人あしぶえは、松江市八雲町にある日本で一番小さな公立劇場「しいの実シアター（通称：森の劇場）」を拠点に、演劇の公演、シアターの運営、演劇祭の企画・実施、企業や学校での演劇を通じたコミュニケーションワークショップ等の活動を行っておられる団体です。 世界でも認められ、様々な賞も受賞されている代表作「ゼロ弾きのゴーシュ」の自主公演や、6 か国 15 劇団が参加された「八雲国際演劇祭」の企画・運営など、理念として掲げておられる「演劇によるまちづくり」の実現に向け、精力的に活動を行っております。 昨年、2016 年には創立 50 周年を迎えられ、新たに小中学校の子どもたちを対象とした「しいの実シアター 未来学校」を開校し、未来の地域を創る人材の養成に向けた取組も実施されています。 以下、そんな NPO 法人あしぶえにおける私の研修を報告させていただきますが、百聞は一見に如かず。2017 年秋には国際演劇祭の開催も予定されております。是非、八雲町の「森の劇場」に足を運んでいただき、日頃体験し得ない演劇の世界に触れていただければと思います。 あしぶえ公式ホームページ：http://www.yitf.org/			
①研修の日時・内容 ◆ 8月10日（水） しいの実シアター未来学校 準備 【内容】 未来学校の当日の役割分担等の打ち合わせ・会場準備 ◆ 8月19日（土） しいの実シアター未来学校 最終日参加 【内容】 しいの実シアター未来学校の暮らし体験の補助スタッフとして参加			

- ◆ 9月11日（日） 創立50周年記念公演「セロ弾きのゴーシュ」稽古見学
【内容】 「セロ弾きのゴーシュ」の稽古を観劇

- ◆ 9月15日（木） カナダ「ひつじ」保育園貸切公演
【内容】 午前：カナダ「ひつじ」保育園貸切公演の表方体験（駐車場整理）
午後：森の小さな演劇祭2016に向けた準備
（会場準備、パンフレット詰め等）

※「表方」とは、公演の際に来場されたお客様をお迎えするために行う、駐車場整理、受付、場内整理、等の劇場の表側の業務のこと（⇔裏方）

- ◆ 9月17日（土） } 森の小さな演劇祭2016 表方体験（駐車場整理）
9月19日（日） }
- 【内容】 「森の小さな演劇祭2016」に駐車場スタッフとして参加
人形劇団ひばりあむの永野むつみさんの講演聴講

- ◆ 10月 6日（木） 八雲小学校 コミュニケーションワークショップ
【内容】 午前：八雲小学校コミュニケーションワークショップ参加
午後：創立50周年記念公演「セロ弾きのゴーシュ」に向けた準備
（会場準備）

- ◆ 10月16日（日） 創立50周年記念公演「セロ弾きのゴーシュ」本番
【内容】 「セロ弾きのゴーシュ」の表方体験（駐車場整理）

- ◆ 11月13日（日） 来てみて八雲収穫祭
【内容】 来てみて八雲収穫祭 スタッフ参加（駐車場整理及び受付）

- ◆ 12月11日（日） 落ち葉集め
【内容】 しいの実シアター敷地内の落ち葉清掃作業

- ◆ 2月 3日（金） ふりかえり
【内容】 園山理事長、有田理事としいの実シアターにて研修のふりかえり

③ 各研修の詳細

【しいの実シアター 未来学校】

しいの実シアター未来学校は、未来の地域を創る人材の養成を目的とし、小中学生を対象に、3日間にわたり、芸術体験（人形劇の観劇と人形操作ワークショップ）と暮らし体験（火起こし体験と飯盒炊爨、カレー作り）を行うもの。今年度から初めての取り組みとして、実施。

【各公演・イベントの表方体験】

各イベントにおいて、表方体験として、他のボランティアスタッフとともに、駐車場整理を行った。

振り返り時に園山理事長からも発言があったが、あしぶえでは、公演やイベントそのものだけでなく、それを体験する過程においても満足感を感じてもらい、それによってあしぶえのファンになってもらい、演劇への理解を深めてもらうということを目指しておられる。

そのため、表方（公演やイベントの際に来場されたお客様をお迎えするために行う、駐車場整理、受付、場内整理、等の劇場の表側の業務）を非常に重視しており、駐車場整理一つとっても、一台ごとにバックの誘導をしたり、公演後の帰りの誘導も実施したりするなど、きめ細やかな対応を行っている。

一つ一つは些細なことかもしれないが、目指される理想に向けて、個々の満足度を高める取組を積み重ねておられ、自らの日々の業務においてもそうしたちょっとした細やかな気遣いの積み重ねが重要ではないか、という気づきを与えてもらった。

【八雲コミュニケーションワークショップ】

八雲小学校で行われたコミュニケーションワークショップにスタッフとともに参加。3年生の2クラスで「心をひとつに」「集中する」「失敗は宝もの」という3つの約束の上で、身体を使ったコミュニケーションゲーム（例：AとBの2つの選択肢から即座に1つを決め、声を出す＝自分で決めることの訓練）を行った。

あしぶえでは、学校や企業でこうしたコミュニケーション力や表現力を高めるワークショップを実施している。

④ 研修の感想

（振り返りの大切さ）

あしぶえでは、公演やイベントを行った後にスタッフで、「どこがよくて」「どこがよくなかったか」という意見を出し合い、その場で「どうすればよくなるか」という改善の検討を行う『振り返り』をととても大切にしておられる。

この『振り返り』は、必ずそのイベントの当日か翌日に実施をしておられ、数日にわたるイベントの場合には、1日毎に行っている。記憶が鮮明な内に行うことでよりよい振り返りを可能とし、改善をその場で検討し、すぐさま実践することで、例えば複数日にわたるイベントでは、1日目より2日目、2日目より3日目というように、クオリティーの向上が図られている。

「どうすればよくなるか」をその場で検討し、実践することで、「悪かった点を指摘するだけの単なる反省会」で終わることなく、意味のある『振り返り』としているのである。

また、この振り返りはいわゆる法人の職員だけでなく、ボランティアスタッフも参加

して行われ、意見を求められる。これにより、ボランティアスタッフも当事者意識が芽生え、活動の中で何か問題がないか、という視点が生まれている。（実際に、私も当初振り返りにおいて、「古川さんはどう思われますか？」と聞かれた時は満足に回答できなかったが、それ以降は実際に動く中で、ここはこうした方がいいのではということを考えるようになった）

行政においても、P D C Aなどといった言葉とともにこうした振り返りを奨励されるが、実際のところ形だけの評価・反省をするだけになっている場合が往々にしてあるように感じられる。行政においても、あしぶえが実施しているような真の意味での『振り返り』を継続的に行っていくことの重要性を今回の研修で強く感じた。

あしぶえも、当初からこのような『振り返り』が機能していた訳ではなく、何年もの積み重ねの中で、職員やボランティアスタッフの中に『振り返り』の意識と取組が根付いてきた、というように話を伺った。

まずは、自らがそういった意識をもって業務に向かい、少しずつであっても、提案や問題提起を行い、意味のある『振り返り』ができるよう努力していくことが重要であると感じた。

（個人的な反省点）

あしぶえの皆さんには多くの時間を割いて、貴重な経験をさせていただいた一方で、こちらから提供できたものが人手以上のものでなかったという点は派遣された個人として、大変申し訳なく、反省すべき点であった。

具体的には、それぞれの取り組みにおいて与えられた役割を果たすことに終始し、団体が抱えておられる現状に自ら踏み込んで、目を向けていくというような姿勢が足りなかった。

例えば、団体の経営状況や、人員の状況、継続的な活動を行っていく上での課題、日常の業務の状況はどうか、などイベントのお手伝いとは別にそうした点にも自ら目を向け、お話を伺い、そこから県職員としての視点からのアイデアがないのか、あるいは個人として何ができるのか、といったことを考えていくべきであった。

そうすることで、研修先であるあしぶえに対し、何か一つでも有効になるかもしれないアイデアを提供することが可能であったように思う。

「協働」という意味においても、研修を受け、気づきを与えられるという受け身の姿勢だけでなく、受け入れ先にとっても何か少しでもプラスになることをもっと積極的に行うことが何より重要な点であったと感じている。

今後、この研修に限らず、そういった姿勢を意識して取り組んでいきたい。

⑤ 最後に

半年という長期にわたり、研修生として受け入れて下さったN P O法人あしぶえの皆様、お忙しい中、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

（注1）研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。